

活動成果報告書

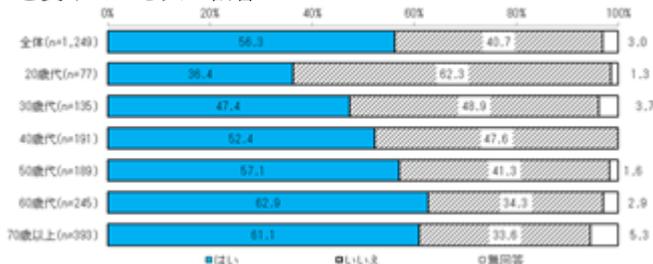
令和6年度（第28回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ 定期的歯面清掃を受ける20歳以上の市民の割合向上のための取組	
グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 宝塚市 健康福祉部 健康推進課 代表者：近田 佳世	
勤務先：宝塚市役所 所 属：健康福祉部 健康推進課 所在地：〒665-0827 兵庫県宝塚市小浜4-4-1 TEL：0797-86-0056 FAX：0797-83-2421	

【活動方針】

歯・口腔の健康は、健康で質の高い生活を営む上で重要である。歯の喪失の主な原因疾患であるとともに、全身疾患との関連性も指摘されている歯周病を予防することが大切だが、平成30年4月に実施した健康たからづか21アンケート調査の結果では、定期的歯面清掃を受ける人の割合は、全年代で56.3%となっており、特に60歳未満では60%に達しておらず、また、初期症状を含む歯周病を有する人の割合は20歳代が51.9%、30歳代が51.1%、平成29年度宝塚市歯周病検診結果では、進行した歯周病を有する人の割合は40歳代が50.0%、60歳代が61.7%となっており、どの年代でも半数以上の市民が歯周病を有している。

定期的なプロフェッショナルケア（歯石除去や歯面清掃）を受けている人の割合



健康たからづか21後期計画策定のアンケート調査より
(平成30年5月実施)

平成29年度（2017年度）宝塚市歯周病検診結果より

歯周病の症状（初期症状を含む） を有する人の割合	20歳代	51.9%
	30歳代	51.1%
進行した歯周病（歯周ポケット 4mm以上）を有する人の割合	40歳代	50.0%
	60歳代	61.7%

歯周病を予防し、歯や口腔の健康を維持するためには、適切なセルフケアとともに、プロフェッショナルケアの継続が重要であることから、市民全体の定期的歯面清掃を受ける人の割合を65%以上にすることを目標に、60歳未満を中心とした取組を実施したため報告する。

活動成果報告書

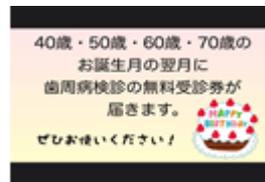
【活動内容】

(1) 対象者の分析

- ・平成 30 年 4 月に実施した健康たからづか 21 アンケート調査では、かかりつけ歯科医を有する人の割合は女性よりも男性の方が低いため、男性へのアプローチ方法を考えた。
- ・20 歳代～60 歳代の幅広い年代が就労している市職員に向けた受診勧奨は有効だと考えた。
- ・1 歳 6 か月児健診と 3 歳児健診の歯科健診は、令和 2 年度から令和 4 年度まで、市内の実施医療機関に委託しており、こどもの歯科健診の機会が保護者の歯科健診受診動機となるように通知書の内容を見直すことが有効と考えた。
- ・主に 40～50 歳代の男性を対象とする風しん追加対策や、40 歳から 74 歳の宝塚市国民健康保険被保険者を対象とする特定健診の勧奨の機会に合わせて啓発することが有効と考えた。

(2) 歯周病検診の内容や歯の磨き方の啓発動画を作成

- ・令和 5 年 4 月に第 1 弾「2 分で分かる歯周病検診」と令和 5 年 6 月に第 2 弾「歯ブラシと補助器具をつかいこなそう」を作成し、Youtube で動画を配信した。



再生数合計
約 2,100 回



Instagram ストーリー
に動画 (Youtube) のリンクを追加して投稿



- ・第 1 弾「2 分で分かる歯周病検診」の動画は、歯科医師や歯科衛生士と共に動画構成を検討した。動画には歯科医師や歯科衛生士が出演し、歯周病検診の実際の様子をイメージしやすいようにした。また動画時間を 2 分にすることで、最後まで視聴してもらえるよう工夫した。
- ・第 2 弾「歯ブラシと補助器具をつかいこなそう」の動画では、健康推進課の職員 49 名に歯ブラシ以外の補助器具も使用しているかのアンケートをとり、動画に掲載した。
- ・令和 6 年 1 月の第 3 弾「妊娠中のオーラルケア」を作成し、妊娠届出時に配布する冊子「マタニティノート」に、動画の二次元コードと妊娠中の歯のケア方法を掲載した。妊娠中のマイナートラブルに合わせたケア方法を載せることで、より妊婦に適した内容とした。

(3) 市職員用グループウェアの PR コーナーで啓発

- ・令和 4 年 3 月下旬から 6 月下旬まで、市職員に向けたデンタルフロスの使用方法、歯科健診の受診勧奨の動画を市職員用グループウェアの PR コーナーで啓発した。

市職員グループウェアのPRコーナー



活動成果報告書

(4) 1歳6か月児健診と3歳児健診歯科健診通知書による保護者への啓発

- ・令和4年11月から令和5年3月まで歯科健診通知書に、保護者へ向けた歯科健診受診勧奨メッセージと画像を追記した。



いつも仕上げ磨きをしてくれてありがとう！
家族みんなで歯を大切にしよう

○歯周病・虫歯の原因菌は、周囲の大人から子へうつります。親子で正しい食習慣と歯磨き習慣に取り組みましょう。
○歯ぐきが赤くはれている、歯磨きすると出血するなどの症状があれば、歯科医師に相談しましょう。

左記の内容を
歯科健診通知書に追記

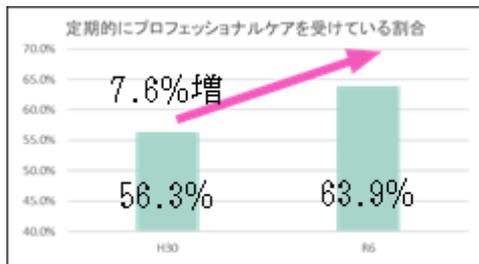
(5) 風しん追加対策と特定健康診査の通知に合わせた啓発

- ・勧奨通知に(2)で作成した動画にアクセスできる2次元コードを掲載した。また、歯周病について関心を高めるため、限られたスペースに「歯周病が気になる年齢です」とのメッセージを加え、問題意識を持ってもらえるよう工夫をした。



【活動成果】

令和6年1月に実施した健康たからづか21アンケート調査の結果によると、定期的歯面清掃を受ける人の割合は63.9%となっており、前回調査時から7.6ポイント増加した。また、主な勧奨対象とした40歳代と50歳代では60%を超えた。



健康たからづか21後期計画策定のアンケート調査より
(平成30年5月実施)

令和4年度は乳幼児健康診査で1,342件、令和5年度は風しん予防対策で20,320件、特定健康診査で23,464件の通知の際に啓発を行った。

【特にPRしたいこと、今後の計画】

定期的歯面清掃を受ける人の割合が低い若い世代へアプローチする機会は限られており、母子保健担当、成人保健担当、予防接種担当が横断的に連携することにより、乳幼児健診、特定健診、予防接種などの様々な事業を通して、60歳未満の若い世代に歯の健康についての啓発ができた。また、これまでは、チラシによる啓発が中心であったが、動画の活用により多くの情報を、メッセージ性が高い、伝わりやすい方法で啓発ができた。

市民全体の歯面清掃を受ける人の割合は向上したものの、20歳代と30歳代は60%未満であり、目標値65%には達していない。今後も若い世代に向けたアプローチを継続する必要がある。40・50・60・70歳の市民に送付する歯周病検診無料券に同封するチラシの内容の変更や、作成した動画の効果的な活用について更に検討し、引き続き定期的歯面清掃を受ける人の割合が増加するよう取り組んでいく。